

分科会 1 — 広島県

研究テーマ：
私たちの保育実践あるあるを振り返る
 —「安心度」「夢中度」という視点を通して

発表園：
 認定こども園ハイロスハイマ、認定こども園西部めばえ、めばえ幼稚園、天使幼稚園、
 松永幼稚園、サムエル幼稚園、千鶴幼稚園、神辺千鶴幼稚園

指導助言者：
 濱田祥子 先生 | 比治山大学現代文化学部 講師

テーマ設定の理由：
 保育者は省察的実践家であり、自身の保育を振り返ることで、よりよい保育実践を目指す。自身や自園の「当たり前」となっている保育実践に対する省察を個人ですることは難しいとされ、他者と共に振り返ることの意義は大きい。本研究会は、複数園の保育者で構成されており、それぞれの保育実践あるある（「当たり前」）を振り返ることで、保育の基本に立ち返ってみたいと考えた。

研究の概要：
 研究会の当初は、日々の保育における悩みや課題について解決策を模索していたが、そもそもそれらは悩むべきこと、課題なのだろうかという疑問が生じた。この疑問が契機となり、私たちの保育実践あるあるを振り返ることになった。振り返りの際は、子どもの姿を「できる」「できない」ではなく、安心して夢中になって遊べているだろうかという視点を用いた。すると、当たり前と思っていた保育に対して、「こういう風にしたい」「こんなやり方もある」というアイデアが生じた。そこで、各自のクラスでできる範囲で、子どもたちがより安心して夢中になって遊べるように保育を変える試みをし、エピソード記録を作成した。当たり前と思っていた保育を変えることには、大きな葛藤や不安があったが、保育の変化に対する子どもたちの反応は予想以上に大きく、子どもたちの新たな一面に出会うことができた。現在は、エピソード記録等から、子どもたちが安心して夢中になって遊ぶための保育について整理しているところである。一方で、保育を変えることによって新たな悩みが生じている。
 当日は、これまでの研究報告とともに、参加者の皆さんと一緒に、子どもが安心して夢中になって遊べる保育について考える時間を設けたい。参加者の皆さんにとっても、保育実践あるあるを振り返り、明日の保育へつながる場となることを願う。

分科会 2 — 山口県

研究テーマ：
今こそ考える、保育実践の充実につながる振り返りの工夫

発表園：
 認定こども園野田学園幼稚園

指導助言者：
 川崎徳子 先生 | 山口大学教育学部 准教授

テーマ設定の理由：
 昨年度より実施された新しい教育要領等では幼児期に育みたい資質・能力の3つの柱は、あそびを通した総合的な指導の中で一体的に育むことが求められている。そこで、子どもが「やりたい!」「知りたい!」「関わりたい!」という思いに突き動かされて、主体的・対話的で深い学びに繋がっていくような遊びが充実するための環境づくりをしたいとテーマを設定し2年目に入る。今年度はさらによりよい保育実践と保育力の向上をめざすための振り返りを工夫することとした。

研究の概要：
 本園の施設は乳児部と幼児部に分かれているが、0歳から5歳までの育ちをしっかりと見通して保育をすることを重視している。乳児は担当制保育を導入し、担当保育教諭との応答的な環境の中、愛着関係をしっかりと築けるようにきめ細やかな保育に努めている。幼児は乳児の育ちを基盤に、意欲と主体性が十分發揮されるような環境を工夫し、一人一人の育ちに注目して将来を見据えた資質・能力が育まれるための援助の仕方を考えている。
 そのために今年度はグループごとに分かれ、保育を話し合うミーティングの時間を確保する工夫をしたり、記録を重ねたりなど振り返りの充実から保育実践を具体的に考える機会を大事に取り組んでいる。今こそもう一度、振り返りということを丁寧に考えながら取り組んでいる。

分科会3 —島根県

研究テーマ:

「見える力」で「見えない力」を育てる

—体づくりを通して、体と心のつながりを探る

発表園:

学校法人坪内朋和学園 育英北幼稚園

指導助言者:

肥後功一 先生 | 国立大学法人 島根大学大学院教育学研究科 教授

テーマ設定の理由:

幼児教育は遊びを中心とした生活全体を通じて行われるものである。しかし、社会変化により、生活や遊びも変化してきており、園での遊びや生活の質を向上させるためには、意識的に「体の力を高める」取組を導入する必要があるのではと考え、実践を行ってきた。体づくりの取組は単に子どもの体力向上や身体機能・運動機能の改善にとどまらず、意欲や挑戦心、協働性といった幼児期の精神機能(心)の育ちに影響を及ぼすことに注目し、探ることにした。

研究の概要:

体づくりのサーキット活動を中心に研究していく。「跳び箱」を挑戦する課題をサーキットの核として位置付け、サーキット活動の充実を図る。サーキット内容を子ども達のアイディアで変えていくなどの工夫をして取り組んでいくことで、様々な体の動きを楽しんでいく子ども達の体づくりをみていく。クラスみんなで取組み、時間や空間を共有し、継続的に取り組むことで、自分に対する振り返り、相対化していく様子を捉え、他者に対する思いやり、応援する気持ちなど様々な精神機能(心)の育ちへのつながりについても探っていく。個と集団の相互作用にも注目し、体づくりから体と精神機能(心)のつながりを明らかにしていく。

分科会4 —鳥取県

研究テーマ:

豊かな心を育てる保育

—日々の生活の中で、ともに育ち合うこどもを目指して

発表園:

認定こども園 鳥取第四幼稚園

指導助言者:

高橋千枝 先生 | 東北学院大学文学部 准教授

テーマ設定の理由:

本園は平成24年度より、幼稚園から幼保連携型認定こども園としてスタートした。このことにより、0歳から小学校就学前までの園児がともに生活する場へと変化した。開園当初は新しいこども園のスタイルに職員が戸惑いを感じ、幼児部と乳児部はそれぞれの活動をすることに一生懸命で、子ども達の発達に応じた生活のつながりが上手くいかない部分があること、異年齢での関わりが少ないことに気がついた。0～5歳児のいる認定こども園の良さを生かした保育を展開したいと職員同士が話し合い、行き来しあうことで繋がりをもつようにしたところ、職員が一人ひとりの子どもを理解することができ、次年度の学年の移行が子ども達にとって無理なく行えるようになってきた。また、職員同士が繋がることで子ども達が様々な学年の友達に関心をもち、関わる姿も見られるようになり、その中で育つ子どもの力があることを感じるきっかけとなった。園生活の遊びの中で自然な異年齢の交流が生まれるための環境構成や教師の援助を考えると共に、子どもの育ちや関わりを教師間で話し合い、豊かな心を育てていくために日々の保育をどう設定していくべきかを考え、異年齢の子どもがともに育ちあうことができるよう研究を進めていくこととした。

研究の概要:

異年齢交流ならではの心情や態度が養われるよう、幼児部では異年齢交流の縦割りグループを設定し、意識的に異年齢の交流をもつ機会を作りながら進めたり、乳児部と幼児部の子どもが行き来しあい、交流の機会をもったりするようにした。クラス数が多く、園全体で動くと不安に思う子もあるだろうと考え、交流をするクラス、ペアを決めて顔見知りになり、親しみをもちながら関わることができた。始めた頃は異年齢交流は、教師が設定した保育の中での関わりが中心で、自分達で考えたり、遊びこんだりする機会が少なく、交流するクラスや相手も同じになってしまい様々な子どもがふれあう機会が少なかった。そこで、日常の園生活の中で、自然に異年齢の友達の姿を目にしたり、交流が生まれるための環境構成の工夫や教師の援助のあり方を考えたりしていく必要性を感じた。また、異年齢交流を進める中で、子ども達が相互に教え合い、学び合い、共に育ちあうための力を育てるために、教師間で話し合いを進め保育を計画していった。

分科会5——岡山県

研究テーマ:

保育の実践 わたし・わたしたち・みんな

——想像の世界 ひろがりつながっていく楽しさ・嬉しさと一緒に

発表園:

学校法人竹中学園 認定こども園 竹中幼稚園

指導助言者:

金山和彦 先生 | 倉敷市立短期大学保育学科 教授

テーマ設定の理由:

本園はキリスト教の精神を土台にした幼稚園であり、その大きな教育目標の一つが「共に生きる」である。「違い」のある一人一人が共に生きるために力とは。その根っこを保育の現場でどう育んでいくか。毎年行われている「想像の翼をひろげて」の活動実践のなかで探ることとした。

研究の概要:

「ねえ、これ“まほうのたね”なの」この言葉をきっかけにはじまった物語。そして、“まほうのたね”的持ち主「シードさん」との出会い。たったひとつの言葉から創出された物語の種は、子どもたちのイマジネーションにより大きく育っていった。溢れ出す柔軟な発想や思いを、「言葉」「身体」「音」「造形」これらを重ね合わせながら日々表現を試みる子どもたち。またその表現を互いに見せ合い、もっとこうしてみよう、イメージを共有する喜びを経験する子どもたちの姿が多くみられた。「わたしのシードさん」から「わたしたちの」そして「みんなのシードさん」へと意識がどんどん拡がり深まっていった。共に生きる力の基とは、「わたし」「わたしたち」「みんな」へと意識が広がっていくそのプロセスの中にあるということを日々の実践によって気付かされた。このことは、本園の教育理念・教育目標の具体的実践として大きな学びとなった。今後の日々の保育の中においてもこの学びを活かしていきたい。

分科会6

研究テーマ:

公開保育「考える力を育む」

発表園:

学校法人ひかり学園 第二ひかり幼稚園

指導助言者:

岡崎多美子 先生 | 学校法人朝日学園 朝日塾幼稚園 園長

テーマ設定の理由:

当園の教育理念は、「聖書の教えをもとに、みんなを大切にする『やさしい心』、すべてに感謝する『きれいな心』、自分で考え行動する『つよい心』を育てる」である。教師・保育士で園の自己評価を行った結果、その内の「自分で考え行動する」、すなわち「思考力の芽生え(幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)」という観点で保育を行うことについて課題があることに気がついた。そこで、どのような関わり、どのような環境設定が「考える力を育む」ために必要であるかを検討し、実践することにした。

研究の概要:

当園は、幼稚園型認定こども園であるため、幼稚園部の教育時間・預かり保育時間、3歳未満児の保育園部、小学1～6年生(卒園児)の学童保育、それぞれにおいて、同時に、且つ、互いに関連を持つて研究に取り組むこととする。夏に予定している当該教育研修会では、幼稚園部預かり保育・保育園部・学童保育での取り組み(夏休み中の日常的な保育の様子)を公開し、秋に予定している岡山県内の研究大会では、ECEQ公開保育として、幼稚園部教育時間での取り組みを公開する。具体的には、「考える力を育む」ために必要だと思われる環境設定・遊び・言葉掛けなどについて、検討・実践・検証を繰り返していく。当日は、その途中段階の様子を公開し、意見や感想を頂いて、その後に生かしたいと考えている。

備考:

定員80名

当日はホテルグランヴィア岡山に集合し、バスで移動予定(集合時刻は実施要項で確認)

分科会7

研究テーマ:

設置者・園長・ネクストリーダー部会

演題:

幼稚園の法律問題—安全・安心な幼稚園を目指して

講師:

岩月泰頼 先生 | 松田綜合法律事務所 弁護士

ねらい:

園内事故・保育教育サービスに関する問題・近隣トラブル・労務問題(パワハラ・マタハラ・業務命令)・保護者対応・行政トラブルなど、園児を預かる園では毎時毎分と緊急の連続である。弁護士の岩月泰頼先生から、日々の現場で発生している事例や判例などを題材に、事故の予防、適切な対応、問題解決の糸口を学ぶ。

日程:

9:00-10:00	講演I
10:00-11:00	事例をもとにグループワーク
11:00-12:00	講演II
12:00-	終了・解散

参加概要

参加希望人数

広島県	100
山口県	85
島根県	20
鳥取県	65
岡山県	230
合計	500名

参加費

研修会	7,000円
タペのつどい	8,000円